

観光まちあるき

香美がたり

小代・但馬牛編

おじろ・たじまうし



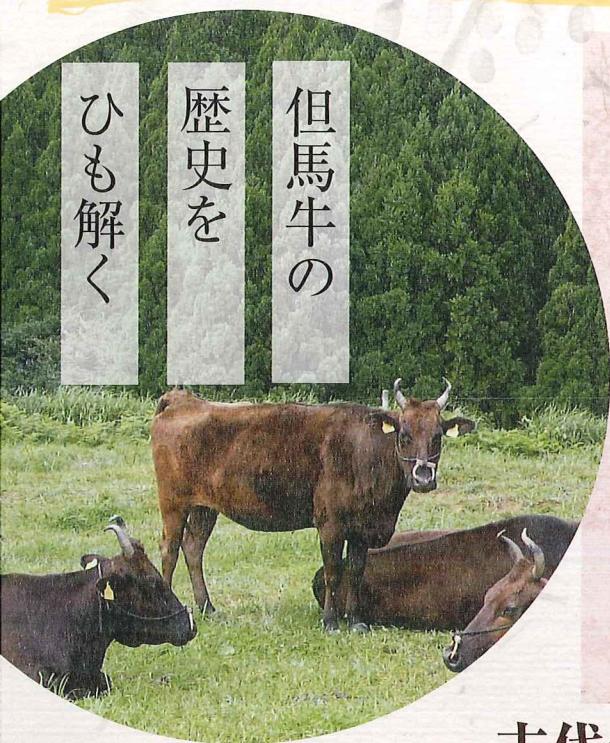
Tajima-ushi

小代の誇り
和牛のふるさとを訪ねる旅

但馬牛の歴史と蔓牛

ひも解く

歴史を
但馬牛の



つるうし
蔓牛と前田周助

中国地方や兵庫県但馬地方の山間部では、同じ谷筋の牛を交配し続けて優れた特徴を受け継ぐ牛の系統「蔓牛」づくりが盛んになりました。江戸時代末期の農家・前田周助は、良い母牛から良い雌子牛が生まれることに気づき、近隣の村々から良い母牛を買い取って交配させ、小代村の中だけで良い牛を次々と生み出しました。そして蔓牛のひとつ「周助蔓」を作りました。

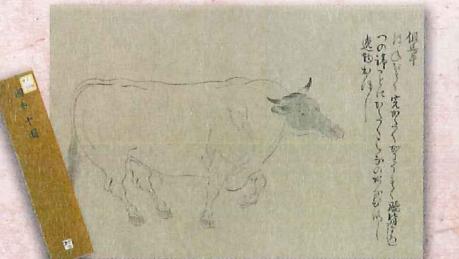
コラム

前田 周助 まえだしゅうすけ

周助さんが借錢をしてまでよい牛を買い求めたのは、自分のお金儲けのためではありません。「蓑笠にも隠れる」と言われる程、小代の谷は小さな棚田や田畠が多く、農家の暮らしは楽ではありませんでした。周助さんは、この小代の谷の人々が少しでも楽に暮らすために、どこよりも優れた牛を作り、高く売れるようにすることが一番の方法と考え、そのための仕組みつくりをしようと考えたのです。

古代の書にも記された但馬牛

但馬牛は古事記や続日本紀にもその名が記されていますが、鎌倉時代の書「国牛十図」ではイラスト付きで優れた特質が記されています



「骨はそく空かたく 皮うすく 背骨まろし 角めにかたく はなの穴ひろし 逸物おほし」
(骨は細いが筋肉の締まりがよく、皮膚は薄いが背骨がゴツゴツしていない。角やひづめは特に硬く、鼻や口周りが広くて健康、優れた牛が多い)

「国立国会図書館」の出典

古代の書にも記された 但馬牛



純血種消滅の危機

明治時代になると、小柄な但馬牛を外国の牛のように体格の大きいものにしようと、外国種との交配が行われるようになりました。ところが体格が大きいため、狭い棚田での作業は不向きで、性格が荒く肉質も低下するなど、但馬牛への改良は失敗。純血種の但馬牛が途絶えかけました。

種雄牛『田尻』号

「田尻」は、小代村貫田の田尻松藏宅に、母牛「ふく江」の4頭目の子牛として、昭和14年に生まれました。種雄牛(血統を残すための優秀な雄牛)として県に買い取られ、昭和29年まで優秀な種牛として活躍しました。田尻号は昭和16年～29年の13年間に1500頭近い子供を自然交配で残しています。現在、全国の黒毛和種の母牛の99.9%が「田尻」の血統を受け継ぎ(※)、全国の和牛の9割を占める黒毛和種の肉質の改良に貢献しています。

(※平成24年2月現在、全国和牛登録協会調べ)



◆田尻松藏と「ふく江」
自宅前にて撮影

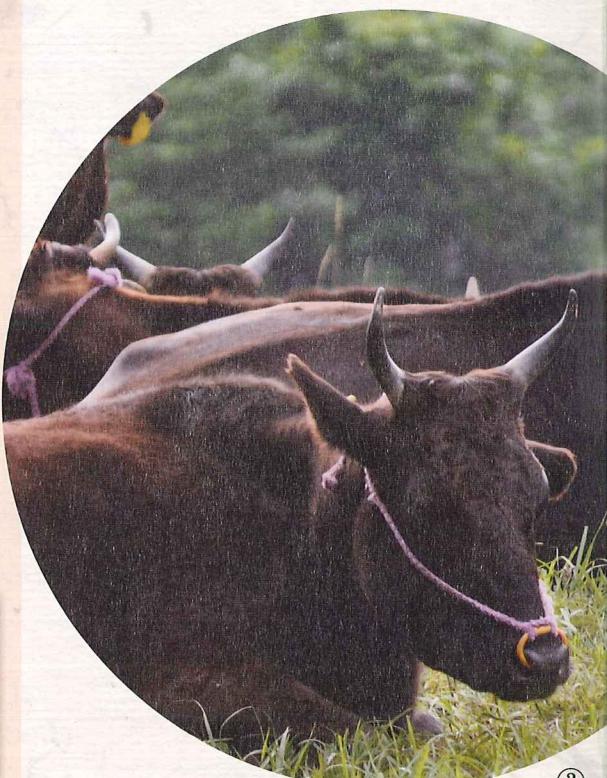


「田尻」号▶

但馬牛の再興

戦後、元の優秀な但馬牛の血統を取り戻そうと、新しい蔓牛づくりが始まりました。小代村では外国種との交配を免れた、純粋な但馬牛の血統が奇跡的に見つかり、その基礎となった雌牛「あつ」と、純血の但馬牛が暮らしていた熱田集落(現在は無住集落)にちなんで「あつた蔓」と名付けられました。「あつた蔓」からは明治末期から大正時代にかけて小代村で活躍した種雄牛「熱田」「第二熱田」、その母牛「ぬい」などの優秀な但馬牛がたくさん誕生し、特に優れた形質を持つ種雄牛が「田尻」です。

全国の黒毛和種の母牛の
99.9%が「田尻」の
血統を受け継ぐ



但馬牛との暮らし (昔・今)

我が子のように
愛情深く、
今も昔も変わらぬ思い



小代の風土が育んだ但馬牛

但馬牛は体が引き締まった小柄な牛で、小さな棚田を耕すのに適し、夏は集落から離れた山の上に放牧していました。小代は雨が多く、山々は豊富な水に恵まれ、野草や薬草も豊富。昼夜の寒暖差が大きく、夏場、夜露で柔らかくなったり栄養豊富な草を食べ、毎日険しい山を行き来することで、足腰の強い健康で丈夫な牛になりました。

「牛は家族の一員。」

但馬の人々は、大事な働き手の牛を家族の一員として、同じ屋根の下、一番温かい南向きの一角を牛の部屋「厩」にして、雪深い冬には、夏に刈り取った稲わらや干し草を湯釜で柔らかくして与えるなど、愛情深く育っていました。農家にとって雌牛は働き者、子牛を産み現金収入として生活を支える良き「娘」。毎日のように丁寧にマッサージし、皮膚や毛だけでなく肉質も柔らかくなったりと言われています。

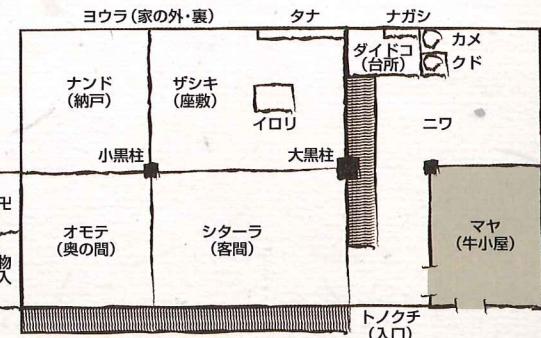


小代での畜産農家の規模と戸数

1~4頭	5~9頭	10~19頭	20~34頭	200頭~	合計
7戸	1戸	6戸	2戸	1戸	17戸(389頭)

牛と共に暮らす家

小代では、稻作農家のほとんどが1頭か2頭の農耕牛を飼っていましたが、農機具の機械化が進んだ昭和40年代以降は、肉用牛の繁殖農家に変わりました。最近では肥育、牛肉販売まで行う一貫生産も増えてきました。一方で、畜産農家から出る牛の糞尿を堆肥化して稻作農家が活用し、稻作から出る稲わらや畦草を畜産に活用する、循環型農業も見直されています。



但馬の山間部の家の間取り

小代で育まれている『循環型農業』



小代では、今でも稲木干しの風景がたくさん見られますよ。

香美町小代堆肥センターで作っているよ



昭和初期の牛飼いの1日

マヤで飼育

1日の流れ

- 6:00 牛のえさやり
- 6:30 自分たちの朝食
- 8:00 母牛と山に出かける
※山へ炭焼きへ行く際に牛も連れて行く。
※子牛は家のマヤに。
- 15:00 下校した子どもが山へ牛を迎えにいく
- 17:00 帰宅後、すぐに牛にえさやり

現在の牛飼いの1日

放牧飼育の場合

現在は、牛の飼い方や頭数が多様化しています。放牧飼育の場合、子牛は5ヶ月で乳ばなれ(離乳)し、妊娠の確認された母牛は放牧します。

昭和中期までは成牛のめす牛を一家に一頭飼つていて、毎朝親が山へ放牧に連れて行き、夕方は子どもが牛を連れて帰っていました。一家みんなで牛を家族のように育てていました。

牛肉の話



和牛とは

肉用牛



乳用牛



コラム

国産牛肉と和牛って違うの？

「国産牛肉」は和牛4種類以外の肉のこと、乳牛の去勢牛や乳牛と和牛のかけあわせ、外国種の牛が日本で長く飼われ日本で内用処理されたものなどを指します。

牛の登記簿と検索システム

牛肉を買うと「個体識別番号」という10桁の数字が付いています。国内で育てられたすべての牛にはこの番号が印字された耳標を装着します。(財)家畜改良センターのWebページ「牛の個体識別番号情報検索サービス」に個体識別番号を入力すると、誰でもその牛の一生を垣間見られます。但馬牛の場合は、「但馬牛血統証明システム」で鼻紋や3代前までの牛の名前も見られますよ！



「但馬牛」の規定

- 兵庫県内で生まれた但馬牛(たじまうし)であること
- 県内の指定生産者が県内で肥育した生後28~60ヶ月の雌牛・去勢牛であること
- 県内の食肉センターに出荷され、肉質等が一定ランクのもの

但馬牛は、肉質や肉色の良さはいうまでもなく、サシがきめ細かく入り、皮下脂肪が少なく、肉の歩留まりも良いなどの特徴があります。但馬牛の中で厳選され格付けされたものだけが、神戸ビーフと呼ばれます。

神戸ビーフと但馬牛

神戸ビーフは開国直後に神戸港から横浜の外国人居留地へ牛を送ったのが始まりとされ、以降、国際的に高い知名度を維持しています。実はその牛こそが、但馬牛(たじまうし)だったのです。

同じ但馬牛と書いてても、生きている牛は「たじまうし」、お肉になると「たじまぎゅう」と読みます。お肉は脂肪の入り方やロースの太さでランク分けされます。

肉質が良い

脂肪交雫 [霜降り]		12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1							
肉質等級				5				4				3		2	0					
歩留まり等級	A	神戸ビーフ(神戸牛、神戸肉)				兵庫県産(但馬牛)				A0										
	B									B0										
	C	C5		C4		C3		C2		C0										

脂肪交雫…霜降りの度合い

肉質等級…肉の色沢・肉のしまりときめ・脂肪の色沢と質

歩留まり等級…(生体から内臓、骨などを取り除いた)牛肉の取れる量

全国に広がる但馬牛の血統

良質な但馬牛。全国のおいしいブランド牛へ。

牛を飼う農家には、母牛を飼い、子牛を産ませて1年弱育てて子牛を売る繁殖農家と、繁殖農家から子牛を買って肉用牛として太らせる肥育農家があります。小代の多くは繁殖農家です。昔から、但馬では肉用のみならず、容姿や繁殖能力(子供を作る能力)も優れた牛が生まれたため、肥育農家はもちろん、自分の地域の牛を少しでも良質にする目的で、全国に但馬牛の子牛が貢われてきました。



但馬牛を素に日本中の名牛が生まれています。



*特産松阪牛：松阪地方で、生後約8ヶ月の但馬牛の雌子牛から900日以上肥育した未経産牛

但馬牛の雌牛の特徴

小代に暮らす成牛はほとんど雌牛です。若い母牛ほど、角がきれいな「い」の形になり、背中がまっすぐで、足首がキュッと細く、後ろ足がしっかりと立っています。毛や肌もとても柔らかです。1年1産で、人工授精後285日(約10ヶ月)で生まれます。出産予定日を簡単に計算するには、授精した月から3ヶ月引いて、授精した日に10日足します。牛は生まれた時を1歳と数え、2歳から妊娠、3歳から出産できます。



牛の名前

雄牛は漢字で、雌牛はひらがなで表します。母牛の名前の一部を使う方、全く新しくつける方、中にはお孫さんの名前をつける方まで畜主によって様々です。種雄牛になった場合は、県の試験場で改めて名前がつけられます。

コラム

畜舎訪問で気をつけること

- 無断で畜舎に入らないようにしましょう。
- 畜主の指示に従いましょう。
- 入口では靴の裏を消毒しましょう。
- むやみに牛、施設に触れないでください。
- 大声を出さないように。





和牛のふるさと 小代の見どころ

&但馬牛グルメ

▲大平山荘／但馬牛のすき焼き

但馬牛グルメ

食 但馬牛の本場で食す!

小代区内の但馬牛のおいしいお店。

■石楠花 しゃくなげ

但馬牛の牛丼がオススメ

Tel.97-2687 (小代物産館内)

■Bam-Boo パンブー

但馬牛ハンバーグが美味!

Tel.97-2203 (おじろん2階)

■滝見亭 たきみてい

地の山菜・川魚等も!

Tel.97-2330 (久須部渓谷)

■みか月 みかづき

但馬牛を創作料理で!

Tel.97-2109 (大谷商店街)

■ 昼営業 夜営業 (市外局番) 0796

泊 但馬牛を満喫する!

小代に泊って、但馬牛を存分に味わう。

■小代区内の民宿・旅館

但馬牛を使ったコース料理もお楽しみ頂けます。

■お問い合わせは…

香美町小代観光協会

Tel.0796-97-2250



左)名牛「田尻」号顕彰碑
めいぎゅう「たじり」ごうけんしょうひ
P3の種雄牛「田尻号」を参照。

右)前田周助顕彰碑
まえだしゅうすけけんしょうひ
P2の「蔓牛と前田周助」を参照。



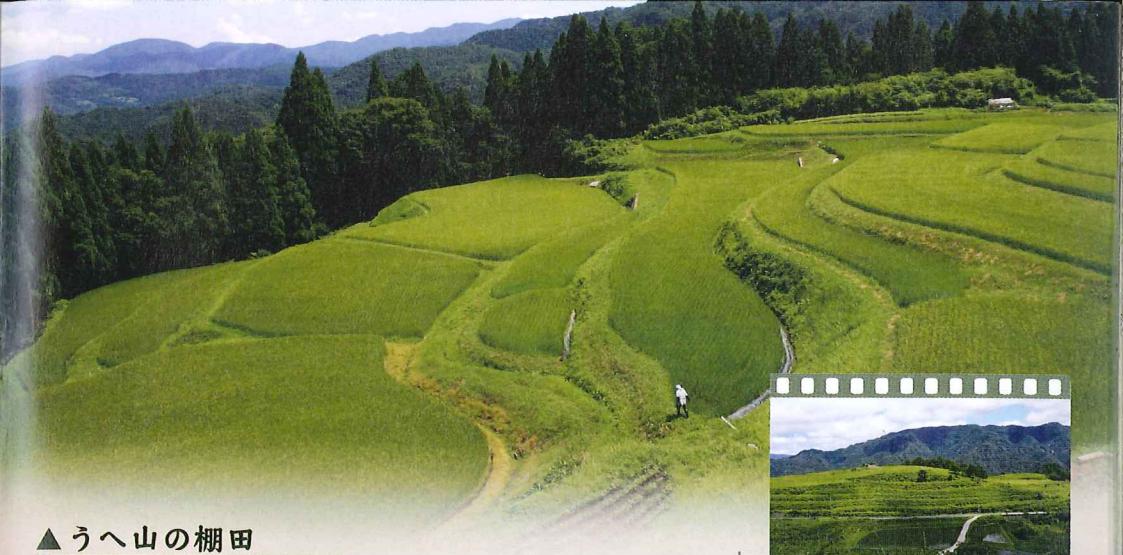
牛玉山光明寺

ひがしがきのだいにちどう

延喜2(902年)、般若寺觀覽僧正の開基と云われ、本堂の鐘には但馬牛が刻まれています。



牛の神様、大日如来をお祀りするお堂。毎年1月28日の祭りではご開帳があり、ぜんざいなどが振る舞われます。畜産農家はここでお札を買い、牛舎の入口や柱などに貼り付け、牛の健康と安全を祈願します。



▲うへ山の棚田

うえやまのたなだ

貴田地区にある「日本の棚田百選」に選ばれた棚田。狭く緩やかな棚田からは小代の山々が見渡せ、斜面に広がる畦の曲線が特徴です。昭和中期まで、多くの小代の棚田では但馬牛を使って農耕を行っていました。



名牛「田尻」号生誕の家

めいぎゅう「たじり」ごうせいいたんのいえ
名牛「田尻」とその母「ふく江」を育て、昭和30年に黄綬褒章を受章した“牛飼いのレジェンド”田尻松蔵氏の暮らした家。昭和中期まで農耕牛とともに暮らした山間部の家屋の構造が当時の面影をのこしています。



但馬牛ミニ博物館

たじまうしミニはくぶつかん
「和牛のふるさと小代」の資料として、共進会(コンテスト)の賞状や貴重な写真などが展示されています。



鳴地の放牧場

しまのほうばくじょう

貴田地区の上にある、大昔の地すべり地にできた緩斜面に作られた放牧場。吉瀬へ行く道路から、但馬牛の放牧風景が見渡せます。



美方高原牧場

みかたこうげんぼくじょう

新屋(にんや)にあるスキー場「ミカタスノーパーク」のオフシーズンを利用して、但馬牛が放牧されています。

コラム

俺たちの武勇田

「うへ山の棚田」の美しい風景を守るために、集落の若手有志が立ち上がり、指導を受けながら、所有者の高齢化で耕せなくなった田を維持しています。年々枚数が増え、地元岡高校の生徒や都市部の大学生、世界各地からのボランティアも受け入れています。





ありのままの暮らし
小代区
香美町
beautiful village

美方郡香美町小代区は、兵庫県北部の但馬地方にあります。南から北へと流れる矢田川の源流域で、非常に自然が豊かです。2005年3月までは郡名をとった美方町でしたが、香住町・村岡町と合併して香美町になった際、「小さい田んぼ」を意味する「小代」という地名を復活させました。矢田川のつくった「小代谷」に、たくさんの棚田がある山村地域です。

日本で最も美しい村 香美町小代

未来に残したい地域資源として、「和牛のふるさと」としての小代、区民が作り上げてきた「みかた残酷マラソン全国大会」が高く評価され、兵庫県下で唯一「日本で最も美しい村」連合に加盟認定されています。

和牛のふるさと



今も変わらず名牛を育て、全国の99.9%の牛は小代の『田尻』号の血統という、まさに和牛の基盤をつくった。

残酷マラソン



大会の特徴のひとつは、小代区民の多くが関わり、参加していること。みんなの声援・気持ちがひとつになり、笑顔になれる大会。

the most beautiful villages in japan
小代
兵庫県香美町

小代の観光の見どころ



ふれあい温泉 おじろん

中性の単純泉の天然温泉。露天風呂やサウナ、食事処も併設。



古代体験の森

火おこし、古代食体験など、森の中で古代体験をしてみよう。



吉滝キャンプ場

標高600mのキャンプ場は見晴らしも最高! コテージ村も。



吉滝 よしたき

上下合わせて28m、滝を裏側から見ることができる珍しい滝。兵庫県指定文化財。



久須部渓谷 くすべきいこく

下流側から見て、右が三段滝、左が要(かなめ)の滝。約300万年前に流れ出たマグマが冷え固まってできた河床はなめらか。金鉱山の跡もある。

但馬牛 二辞典

繁殖農家 はんしょくのうか

母牛を飼い、子牛を産ませ、8~10ヶ月育てて子牛を売る農家。

肥育農家 ひいくのうか

繁殖農家から子牛を買って肉用牛として太らせ、28~32ヶ月で出荷する農家

素牛 もとうし

肉用牛の素(もと)になる子牛。

種雄牛 しゅゆうぎゅう

血統を残すために選ばれた優秀な雄牛。兵庫県では毎年12頭の基幹種雄牛と待機牛約30頭を指定。基幹種雄牛の精液を但馬牛の雌牛に人工授精し、子牛を生産している。

去勢牛 きよせいぎゅう

生まれてすぐに去勢した元雄牛。種雄牛以外の雄牛はすべて去勢される。

オナメ

雌牛のこと。オンナメから訛ったとされる。小代の方言。ちなみに雄牛はコッテと呼ぶ。

コベ

子牛のこと。小代の方言。

閉鎖育種 へいさいくしゅ

限られた地域の中だけで交配を続けること。小代とその周辺では、現在も旧美方郡内(香美町小代区・村岡区、新温泉町)の但馬牛だけを交配させている。

畜主 ちくしゅ

畜産農家の主人(あるじ)。

鼻紋 びもん

人間でいう指紋のようなもの。牛の個体ごとに異なる

【参考図書】

- 小代観光協会 (2012) 『和牛のふるさと・小代』
- 香美町小代観光協会 (2014) パンフレット『和牛の原点・香美町小代 小代物語』
- 兵庫県畜産協会 (2014) 『続但馬牛物語』 兵庫県畜産協会
- 榎勇 (2008) 『但馬牛のいま - 全国の黒毛和牛を変えた名牛』 彩流社
- 松村義男 (2008) 『オナメだったらよかったね』 北星社
- 『旬』がまるごと 2009年1月号 牛肉 ボブラン社
- Discover Japan 編集部編 (2014) 『別冊 Discover Japan ニッポンの和牛』 榊出版社

【取材協力・資料提供】(順不同・敬称略)

- 藤村美香(元小代観光協会事務局)
- 今井正己、毛戸誠、小谷孝一、藤原敏和、田中一馬、他畜産農家の皆様
- 宮本政彦(授精師)、邊見裕作(料理旅館 大平山荘)
- 先山徹(兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科)
- 香美町小代観光協会、山陰海岸ジオパーク小代ファンクラブ

【監修】(敬称略)

河本大地(神戸夙川学院大学観光文化学部)

「観光まちあるき 香美がたり 小代・但馬牛編」

- 著者・発行元 特定非営利活動法人たじま海の学校
〒669-6402 兵庫県美方郡香美町香住区訓谷316番地
発行 2015年2月
デザイン・制作 デザイン 紡-つむぎ-

和牛のふるさと 小代 おじろ ガイドマップ

